

ハロウィン

こども

「ばんせいせつ」の前日行事のことです。

秋の実りのしゅうかくをお祝いし、亡くなったかぞくやゆうじんをしのび感謝する、ケルト人の宗教的行事です。

おとな



アイルランド

ヨーロッパを起源とする民族行事で、毎年10月31日の晩に行われます。秋の収穫を祝い、亡くなった家族や友人達を尊び偲ぶものが、自然崇拝からケルト系キリスト教を経てカトリックへと改宗していきました。カトリックでは11月1日を諸聖人の日（万聖節）としていますが、この行事はその前晩にあたることから、後に諸聖人の日の旧称 "All Hallows" の eve（前夜祭）、Hallowseve が訛って、Halloween と呼ばれるようになりました。またハロウィンの夜に仮装をするのは、家のまわりを徘徊し人間にとりつこうとする悪霊達が、その姿を見て驚いて逃げるようにするためだったそうです。お化けの格好をした子供達が近所の人を脅かしお菓子をもらうようになったのはわりと最近で、40年ほど前です。日本では宗教的背景の上でハロウィンを開催している例は皆無といってよく、クリスマス等と同じくあくまでイベントとして楽しむもので、娯楽化、商業化されたものです。

おばけカボチャ (Jack-o'-Lantern) の由来を



<けちんぼジャックの伝説>

子どもに話してあげましょう！

なぜハロウィンカボチャを Jack(ジャック)と呼ぶかは、「けちんぼジャック」と呼ばれる意地の悪い男の人が彼を死後の世界に連れて行こうとした悪魔をうまく追い払ったというアイルランドの伝説です。

その昔、アイルランドにジャックという名の鍛冶屋がいました。

ジャックは酒好きでいつも飲んだくれていたうえ、ケチで人をだましてばかりいました。

あるハロウィンの夜、酔っぱらったジャックは飲み屋さんで悪魔（Devil / Satan）に会い、危うく魂（soul）をとられそうになりました。その時ジャックはいつもの悪知恵を働かせ、「私の魂をあげるから、その前に一杯飲ませてくれ」というと、悪魔はジャックの飲み代のため、6ペンスに化けました。ジャックはその6ペンスをすばやく自分の財布に入れ、悪魔が出られないようにきつく財布を閉じ、ジャックは、出してくれと必死に請う悪魔に、10年間自分の魂をとらないと約束したら出してやるとつたえ、悪魔は約束し財布からだしてやりしました。

10年経ったある日、ジャックは道でまた同じ悪魔と会い、魂をとられそうになりました。

今度は、「魂をあげるから、その前にあの気になっているリンゴを食べさせてくれ」と言いました。

悪魔がリンゴをとり木に登ると、ジャックはすかさず木の幹に布で十字架を作り、悪魔が下りてこれないようにしました。ジャックは、降ろしてくれと頼む悪魔に、今度は絶対にジャックの魂をとらないと約束させ、木から降ろしてやりしました。

月日が経って、ジャックは年をとって死に、天国（Heaven）に着いたが、生前の悪い行いのため天国には入れず、地獄に送られました。ところが、地獄に着いてみると、そこにあの悪魔がいて悪魔はジャックに「絶対に魂をとらないと約束したから、おまえを地獄に入れることはできない」と断られこうしてジャックは、来た道をまた戻ることになりましたが、道は暗く延々と続いていたため、悪魔が地獄で燃えていた火のひとかたまりをくれ、それを拾って持っていたカブ（turnip）に入れて提灯を作り、ジャックは暗い道を歩きだしました。以来ジャックは生前の行いの罰として、カブの提灯を持ってこの世とあの世を延々とさまよい続けたというお話です。

結局、ジャックが死んだ後、彼の生前の悪事のため天国にも行けず、地獄に落ちることもできず、道しるべにと石炭の明かりをともしたカブを持たされ、罪を償うためにこの世とあの世を行き来しつつ、いつまでも暗い道をさまよい歩き続ける羽目になったという話から Jack-o'-Lantern（「ジャック・オー・ランタン」ちょうちんの Jack）と呼ばれ、呪われさまよう靈魂の代名詞となりました。